

令和4年度 第1回第2期和光市スポーツ推進計画策定委員会 会議録（要録）

1 日 時 令和4年5月27日（金）19時00分～21時00分

2 場 所 和光市役所 6階 602会議室

3 出席者 10名

委員名	選任の区分	備考	出欠席
◎飯田 路佳	第1号委員 (学識経験を有する者)	十文字学園女子大学人間生活学部 健康栄養学科	○
大冢賀 政昭		国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部	○
横島 秋男	第2号委員 (市内関係団体を代表する者)	和光市体育協会	○
○朽木 亮		和光市スポーツ推進委員連絡協議会	○
冨澤 勝広		和光市スポーツ少年団本部	○
藤 律之		和光市小中学校長会	○
荒木 保敏		和光市社会福祉協議会	×
山崎 岩男		和光市生きいきクラブ連合会	○
新井 悦子		和光市青少年を育てる会連合会	○
鷹栖 藍太郎	第3号委員 (公募による市民)		○
尾野 日登美			○

◎委員長 ○副委員長

（事務局）スポーツ青少年課 鈴木課長・森谷課長補佐・小林統括主査・木村主事

4 傍聴者 なし

委嘱式・あいさつ

- ・委嘱式
- ・教育長あいさつ

議題1 スポーツ推進計画の概要について

議題2 策定方法・スケジュールについて

【事務局】

スポーツ推進計画の策定方法については、主に策定委員会と庁内検討委員会において意見を回収させていただき、それらを調整することで策定へ向けて動いていきます。

そのため、アンケートの内容や素案（案）に対してご意見および素案策定時の教育委員会への報告が策定委員会の主な役割となります。

第2期計画については、第1期の計画をベースにしつつも、現在の和光市において、市民がスポーツに求めるニーズを把握し、それに合わせて内容を修正していくことが必要です。委員の皆様におかれましては、資料等を参照していただきながらより改善された計画

となるよう、忌憚ないご意見をいただければと思います。

庁内検討委員会では主に数値目標や実施施策の検討を行います。

策定スケジュールについては、詳細を今後調整していきますが、庁内検討委員会・策定委員会等の他、市民及び学童アンケート、一般市民及び体育関係団体との意見交換会やパブリックコメントを実施し、多角的なご意見をいただきながら素案を作成、修正したうえ令和5年2月の教育委員会にて報告する予定です。

【 委員長 】

何か質問等がありますか。

【 一同 】

ありません。

議題3 和光市スポーツ推進計画（改訂版）について

【 事務局 】

改訂版については、当初計画の策定時に引続き、「スポーツを通じて、健康で生きがいのある人生を実現するために」を基本理念として策定し、各課において、当初計画で設定した数値目標及び実施施策について、再設定及び見直したうえ、現在施策を実施しております。

実施結果の集計は完全なものではございませんが、ここ数年におきましては新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業回数や施設利用数の減少が見られます。

第2期和光市スポーツ推進計画におきましても、前回計画と同様に、数値目標や実施施策を設定する予定ですので、参考としてください。

【 富澤委員 】

令和4年度で9年目に計画が突入しているが、現時点での計画の成果がどのような状況であるのか教えてください。

【 事務局 】

「一市民一スポーツ」という形で計画を進めてきたが現時点では目標は達成できていないように思えます。ただ、「観るスポーツ」として総合体育館においてプロハンドボールリーグの試合を開催し観戦機会を提供するなど目標に向けて進んでいる部分もあります。

前回からの具体的な市民の意識等についての数値の変動についてはアンケート調査回答をもとに後日委員の皆様を示すことができると思います。

【 大野賀委員 】

私も第2期の計画を策定する前に第1期の計画の総括をすべきではないかと考えます。

第1期についての振り返りデータを用意し各目標の達成度合いの確認、達成できていないのであれば今年度行うアンケートで原因を探るような項目を追加することが重要になるかと思っています。

総括や国が示す指針をもとに計画を立てれば説得力のあるより良い計画になります。

【 委員長 】

アンケートの実施時期はいつ頃を予定していますか。

また、現計画のアンケートは中間見直し以降行われていないという認識でよろしいでしょうか。

【 事務局 】

アンケート実施時期は7月から8月にかけてを予定しております。

これまでについては計画の目標や施策ごとにアンケートをとっているものと取っていないものがあるため、取っていないものについては今回のアンケートにて数値等の回収をしていきます。

【 富澤委員 】

実際にアンケートは行われていないのでやるしかないのですが、進捗管理のためにアンケートを実施すべきだったのではないのでしょうか。これだけ大きな計画を作るには進捗管理が一番重要になっていきます。

【 事務局 】

意識調査についてはアンケートをとらないと数字として見えてこないため難しいですが、現計画の数値目標など拾い上げられるものについては数値を年度ごとに確認することは可能ですので、それらをもとに現状の課題分析や抽出を今後行い報告します。

【 大野賀委員 】

資料で確認すると、「一市民スポーツ」を体現する一番近い項目である「週1回以上スポーツをする人の割合を55%以上とします。」という大目標について、平成24年度の34.7%から平成29年度は下がってしまっています。

コロナなど色々な要因があると思いますが、これを上げるために委員会で総力を挙げてアイデアを出すことが大事です。事務局としての達成できていない理由や全体的な認識を最初にお聞かせください。

【 事務局 】

スポーツをやらない理由として平成28年度におこなったアンケートでは33.6%の方が「仕事・家事・育児・勉強で忙しく時間がない」を理由として挙げており、現在もその部分をケアしきれていないことがスポーツ実施率の低下の原因だと思います。

【 大野賀委員 】

そのあたりを分析すると、主なインフラが東京の方にあり、稼働世帯や東京に働きに出ている人が多く、また子育てをするには他市に行く、といった様子が窺えます。このほか色々な要因がある中で和光市らしさを出しつつ市内のスポーツを盛んにするにはこういった方向性に持っていくか、今後皆さんと協議していきたいです。

【 委員長 】

前回の計画において現計画の大目標を決めたときは、スポーツを「する」「観る」「支える」の3つの観点で分類した中で、「する」をメインにしました。それを中間見直しの時に数値が低くなっていることが確認できたとき、「する」ということだけではなく、「観る」「支える」といった色々な観点で多くの人たちにスポーツに参画していただくというニュアンスを含めての70%であったと理解しているのですが、第2期でも同様の理解でよろ

しいですか。

【 副委員長 】

第2期計画における「スポーツ」の定義について検討する必要があるように思えます。例えば「観る」スポーツのうち前回のアンケートではテレビ観戦を除いておりましたが、それでは無観客ではあったもののコロナ禍のテレビ中継にてかなりの視聴率をあげた2020年東京オリンピックが含まれなくなってしまう。また、最近販売しているニンテンドースwitchのように身体を動かしてストレッチもできるようなゲームもあります。

それらを含むだけでパーセンテージの土台が違っていきますし、新型コロナウイルス感染症の拡大など環境が大きく変わる中、「一市民スポーツ」にするためにはスポーツの定義をどのように定めるかが重要となっていきます。

【 委員長 】

ここまでの協議にて、拾える数値をもとにした現状データの整理、それと市民の方々に寄り添うスポーツの定義の検討を行っていくという今後の方向性が示されたのではないかと思います。

【 鷹栖委員 】

制度設計の問題で、この計画を最初に作ったときにどの項目が達成されたら「一市民スポーツ」が達成されたのか定義づけが成されていないので、このような状況になっています。

例えば、初めてこの計画を作って大目標が1つと中目標が15程度ありますが、大目標、中目標のなかでこれは達成されていたら「一市民スポーツ」を達成したことになる、とか、評価方法を先に決めていなかったのもので、「一市民スポーツ」がどうしたら達成されるかに答えようがないです。次の計画を作るときには「この目標を達成できたら一市民スポーツを達成できたであろう」というルールを先に決めておいたほうが良いかと思います。

【 事務局 】

今回の協議にていただいた意見を踏まえながら、進めて参ります。

議題4 国策定のスポーツ基本計画について

【 事務局 】

国策定のスポーツ基本計画は、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画です。第3期スポーツ基本計画については、計画期間を令和4年度から令和8年度の5年間とし、令和4年3月に策定されました。

すべてが和光市にマッチするものではありませんが、基本的な方向性は尊重する必要があり、参考とする部分も多いものになります。

【 大賀賀委員 】

現計画と比較すると盛り込まれていない内容が多くありますので、和光市に取り入れやすいものは積極的に採用について協議していく、ということによろしいですか。

【 事務局 】

国の基本計画については、和光市が対応できない部分もあります。その中で和光市に合ったものを採用していただければと思います。

【 委員長 】

国の計画も社会情勢もコロナ禍の影響もあり大きく変化していますので、その中から和光市に合ったものを取り入れられればと思います。また、国の現計画には新たな3つの視点ということで「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」といった視点が入っていることから、今までなかった考え方をどのように盛り込んでいくかが課題となります。

【 鷹栖委員 】

国の計画は自治体を念頭に置いて作られたものではなく、日本スポーツ協会、オリンピック委員会のような民間組織やチアリーディング連盟などの競技団体といった色々な方が対象になっているので、あげられている施策の全てを和光市が取り組むべきかという、そうではないと思います。和光市としてどこに取り組んでいくべきかが、計画を策定する上でのスタートになると思います。

また、「部活動の地域移行」に関するところは、課題になってくるかと考えます。部活を一例に和光市で取り組んでいくべきものはどれなのか、検討できればと思います。

【 藤委員 】

文科省の地域移行に関しての部分が色々なところから発信されています。

現在、市内では外部指導者を招聘したりしていますが、今後市全体として市の部活動のあり方が実際どのようにになっていくか細かいところまでまだ追従されていません。国・県の動向を踏まえて、実際に動きをとっていくことになると思います。

スポーツ基本計画のなかで、こういった考え方があるのではないかというご意見等があったとしたら、市の部活動の地域移行について参考になるのではないかと考えます。現時点でどのように動いていくかということは見通せていない状況です。

【 委員長 】

政府の動向を含め情報が入りにくい状況ではあるかとは思いますが、そこを抑えつつ全世代のことも考えていかなくてはいけないので今後も情報提供をお願いいたします。

議題5 第2期和光市スポーツ推進計画の方向性について

【 事務局 】

本日、委員の皆様には第2期和光市スポーツ推進計画を策定するにあたり意見をいただきたい事項として、第2期計画の方向性が挙げられます。

当初及び改訂版の推進計画においては、「スポーツを通じて、健康で生きがいのある人生を実現するために」を基本理念としておりました。第2期推進計画においても、委員の皆様のご意見をいただき、計画の方向性を本日決定していただくことで、今後の計画策定における指針とさせていただければと思います。

なお、決定した指針については庁内検討委員会にて各課と情報共有したうえ、それをもとに各課にてアンケート内容の追加希望項目や施策の考案について取り組んでいただく予定です。

スポーツ庁発出の通知では、地方公共団体が計画を策定する際の取り組み要望事項として9つの基本項目、スポーツの機会の創出からスポーツを実施する者の安全・安心の確保が記されております。国の基本計画にも概要の記載がありますので、参考にさせていただきたいものです。

【 大野賀委員 】

埼玉県内の市町村のスポーツ推進計画を参照すると、運動施設の整備や市民の居場所づくり等環境づくりが重要になってくるかと思います。現計画では「する」「観る」「支える」の3つが羅列しているだけなので、先ほどの話にもありました「する」人の減少を意識した目標設定についてもう少し具体的に議論する必要があります。また、和光市らしさとしては全国的にも有名である市の福祉や介護施策との連動、障がい者スポーツなど「共生社会」を意識したスポーツの機会提供について今回の計画で盛り込んでもらえればと思います。

【 富澤委員 】

和光市のハード面を含めた実態を知る必要があるかと思います。例えば、和光市運動場の野球場ではスコアボードの修繕が一向に行われていませんし、荒川河川敷運動公園も除草はあまりされていない状態で、駐車場に行くまでの道でも整備が行き届いていません。アーバンアクア公園の多目的広場もあまり整備されているとはいえず、和光市全体として運動施設的环境がよくないと感じます。

【 山崎委員 】

高齢者にとってスポーツの場は安否確認の場でもありますが参加者は徐々に少なくなっています。免許返納などによって会場までに行く足がなくなってしまう遠慮する人が増えています。

【 委員長 】

スポーツをやりたいけどできない現状は環境の問題の1つですね。

【 横島委員 】

体育協会として事業展開をする中で感じたのが施設の問題です。公式戦に使用できるような基準に達していない施設が多いことや高齢者が集まるのにアクセスが不便な場所が多いです。

【 新井委員 】

月2回開催している小学校の放課後子ども教室では担当してくださる教師および講師の方を見つけ時間等の調整を行うことが難しいのが現状です。

また、総合体育館の利用については利用料が高めに設定されているため、和光市に住みながらも朝霞市の体育館を使用しています。施設の利用料についても見直しが図れば利用率は上がるのではないのでしょうか。

【 尾野委員 】

いつも施設を利用し市の行事に参加する立場ではあるので、施設のアクセスが不便であ

ることは常々感じています。市内循環バスでは遠回りしないとたどりつけないルートもありますので、バスのルートおよび本数の増加などの対応は必要かと思います。

また、私が指導する団体では社会福祉協議会さん等で開催されている障害者や高齢者の皆さんとふれあうイベントに参加しています。そういったイベントの開催を増やしていくことで一般の小中学生がそういう方たちと一緒に何かを行い、達成感を持つ、ということがあたり前になっていけば良いのではないかと思います。

【 委員長 】

こうした意見を出していきどうしたらスポーツに取り組む人が増えていくかをイメージしながら第2期計画を策定できればと思います。

現計画では「する」「観る」「支える」「環境づくり」の4つのポイントとなっていますが、これらのポイントは第2期計画ではこだわらなくてもよいものですか。

【 事務局 】

施策の中心としては「する」「観る」「支える」「環境づくり」を中心にさせていただきたいのですが、それらの表現方法については委員会の中で検討をお願いします。

【 委員長 】

ここでのスポーツの定義としては、「ながらスポーツ」として通勤や生活活動なども運動にカウントするものと捉えています。

【 鷹栖委員 】

スポーツの定義は色々ありますが、日本スポーツ協会では「自身の楽しさをばねに実施するスポーツのこと」をスポーツと定義しているので、野球をしたり走ったりは、自分が楽しいと思うためにするスポーツですが、通勤のために歩いたりとかはスポーツとしては考えていません。

ただそれが冒頭に出てきた国のスポーツ基本計画等の定義とは異なると思うので、まずは国の定義をご確認いただきたいと思います。

【 委員長 】

定義については国のスポーツの定義をもとにしながら設定し、大目標は「する」「観る」「支える」「環境づくり」に関して文言が変わったとしても今後の中心としつつ現計画のデータを参照にしながら今後検討していくということによろしいでしょうか。

【 一同 】

問題ありません。

議題6 第2期和光市スポーツ推進計画におけるアンケートの聞き取り項目について

【 事務局 】

第2期計画においても、アンケートを実施する予定であり、より市民のニーズを把握できるようアンケート項目を設定するために、先程挙げていただいた計画の方向性と以前の内容を照らし合わせながら、アンケート内容を作成してまいります。

アンケートにつきましては、各委員会にて出た意見を踏まえ、最終的な内容を決定し、

7・8月に各市民及び児童に配布のうえ回答回収を予定です。

今の段階でのご意見があれば、お伺いいたします。

【 大塚賀委員 】

アンケート調査以外にも事前にヒアリングを行うというお話がありましたが、現状の環境について障害者の関係団体からヒアリングしていくことは重要かと思います。体育協会やスポーツ少年団等にも同じような形で聞けると、市内スポーツ振興に係る重要な意見を市民に加えて専門家たちにも聞けると思います。

アンケート項目については、スポーツをやるためにはどんな場所や機会があったらよいかなどもう少し環境整備やきっかけづくりについて盛り込んではどうかと思いました。

【 富澤委員 】

アンケートをするうえでの前提条件として、スポーツの定義ははっきりさせないとアンケート結果を推進計画に反映できないのではないのでしょうか。

【 事務局 】

スポーツ基本法においては「スポーツは心身の健全な発達」「健康及び体力の保持、増進」「精神的な充足感の獲得」「自立心、その他の精神の涵養」等のために個人または集団で行われる運動競技、その他の身体活動であり今日国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で、不可欠なもの」と記載されておりますが、その記載からは「する」だけの設定ではないとも読み取れますので、そのあたりは議論の余地があるかと思われます。

【 鷹栖委員 】

スポーツ庁のホームページに載っている質問用紙や回答での選択肢を見てみると、ウォーキング、散歩、ぶらぶら歩き、一人歩き、階段昇降なども入っていますので、アンケート調査自体を参考にするとより簡単に、具体的に定義づけができるかもしれません。

【 委員長 】

スポーツというものについて、この場にいる委員の皆様の共通理解は必要となりますね。

【 富澤委員 】

それと回答するうえで、例えばどのような場所でスポーツを行うかなど具体性があったほうが、検討の幅が広がるかと思います。

【 事務局 】

これまでの意見をもとに次回会議までにアンケート案を形作りますので次回、改めてそれをもとにご意見をいただければと思います。

議題7 その他

【 事務局 】

議題（5）第2期スポーツ推進計画の方向性については、各課とやりとりする資料を作成するにあたって重要になりますので、改めて確認できればと思います。

方向性については福祉・介護の分野の、健康増進、共生社会といった部分に力を入れることはどうかとの意見が上がりました。また、これらを進める際、大事になってくるのが

全年代の「する」機会の提供や、年齢や障がい等を超えた交流を与えるといった環境整備となる、また「する」「観る」「支える」はただ「する」「観る」「支える」に分類するのではなく、そういった環境を整えるために具体的にどうすればいいかを考えて、施策もしくは目標として盛り込んでいくということが必要であり、現計画の総括を踏まえ、形づくることが大事である、という認識で良いですか。

【 鷹栖委員 】

ここで出た意見は結論というわけではないと思いますが。

【 事務局 】

あくまでも認識の確認で、基本理念を構成するうえでの意見の中で重要な一つの要素として環境が大事になってくるということによろしいか、ということです。

【 委員長 】

ここで出た意見をもとにして案を練り直してもらう、ということによろしいでしょうか。

【 事務局 】

それらと事務局にてまとめきれていなかった現計画の総括をもとに基本理念を構成していただければ、と考えていました。

【 委員長 】

国の第3期スポーツ基本計画の資料6-1の一番下にあるスポーツを「つくる/はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」というキーワードですが、「誰もがアクセスできる」といった点では、交通のことも含まれると思います。計画に盛り込むかは別としてこういった考え方に繋がることも想定して検討したほうがよいと感じました。

【 鷹栖委員 】

計画の方向性として和光市の案が先にほしいと感じました。第2期計画の構想について、和光市がどのようにお考えか先に聞きたいです。それがわかればそれをもとに話が進められるかと思いますので、次回会議にていただけるとありがたいです。

【 大賀賀委員 】

現計画の問題点として施策目標がないことが挙げられます。他市の計画をみると目標に対して施策はどう対応するのか、図で記載されています。そういったものを作成することがよいかと思います。

案を作成するにあたり、現計画の「スポーツを通じて健康で生きがいのある人生を実現するために」に対して和光市らしさが出るものや第3期の国の計画のトレンドを入れることなどを検討したうえで案を作成していただければと思います。

具体的に言うのであれば、「する」「観る」「支える」は悪いことではないのですが、これを実現するための目標を立てたほうがよいのではないかと、というのが私の考えです。枠組みの例えとして、「きっかけづくり」が施策の目標にあって、その中に「する」「観る」「支える」のきっかけづくりを支えることや「する」「観る」「支える」を整える環境づくりを行うこと、といったものがありそれらを体系化し図として表すことが重要になります。

また、「する」「観る」「支える」を踏襲して今回も使うのか、あるいは新しい3つの視点が国計画で出ているので「つくる/はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「アクセス

できる」という新しいものを取り入れるか、検討したほうがよいと感じました。

【 富澤委員 】

新しい計画案については、現計画の検証をしていないので何を作りたいかと言われても何も出てこないのではないかと思います。今度第2期で新しいものを作るにあたっては、国のスポーツ推進計画に基づいて作るわけではなく、現計画を検証して、そこで不具合があったら新しいものをどこに取り入れるのか、市としての対応がない限りは、進まないと思われるので、それがまず一番大事だと考えます。

国の計画をもとに作るわけではなくて、今できていないことを取り入れて、現計画をもとに新しい計画を作っていくことが必要と感じます。

【 委員長 】

まとめますと、方向性も大事だけれども、総括も平行で進めていくような感じでしょうか。事務局もそのように説明していますので、そのまとめと、たたき台を出して、私たちも数値を見た上での方向性を皆様のご意見を取り入れながらまとめていけたらと思います。

【 事務局 】

計画について見直す部分もあるので、改めて整理して次の委員会で報告できるように検討したいと思います。

4 閉会